

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	6	大学等名	福岡工業大学
テーマ	テーマⅠ アクティブ・ラーニング		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、事業目標の達成度、ファカルティ・ディベロッパーの育成と認定、アクティブ・ラーニング実施のための教授・学習環境の整備、アクティブ・ラーニング実践事例の調査研究と共有、クラス・サポーターの育成と活動、学生による授業改善活動（学生 FD スタッフ）及び学習ポートフォリオの開発と導入・活用のいずれにおいても実質的に進展している点が評価できる。特に、事業成果の点検・評価に関する取組については、第3フェーズでの加速が目覚ましく、アセスメント・ポリシーの明確化と運用に発展している点は教学マネジメントの観点からも十分に評価できる。さらに、取組の全学展開を図る過程で、アクティブ・ラーニングの必要性に対する教員の認識が向上したことが、アクティブ・ラーニングを行う専任教員数・割合にも表れており、全学的な実践意識の醸成が深化している点は高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、各年度の計画に基づき着実に事業が実施されており、特にアクティブ・ラーニング型授業に関しては平成29年度から急速に水平展開が進んだ点は評価できる。効果的・効率的なアクティブ・ラーニングの実践については、他大学の先進事例の視察等に比重が置かれていた事業開始直後の取組から、アクティブ・ラーニング実践研究会を通じた実施手法やノウハウの学内共有という自立的な取組に移行しており、急速に内製化が進んだ点についても評価できる。なおかつ、非常勤講師においてもアクティブ・ラーニング実施の理解が進み、高い実施率を示している点は、大学全体の取組の推進という点で高く評価できる。今後は、「学生1人当たりのアクティブ・ラーニング科目に関する授業外学修時間」の数値向上に向けた取組を推進することが一層望まれる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学生の「知識の定着」と「能動的な学習態度の涵養」のそれぞれについて直接評価と間接評価を実施し、多角的な点検・評価に基づき改善のサイクルを機能させている点が評価できる。補助期間終了後も「教育技術開発WG」が中心的な役割を担い取組を拡充するとともに、職員の研修会参加を通じてアクティブ・ラーニング実施状況への理解を深めることが計画されており、教職協働によるアクティブ・ラーニングの拡大が期待される。なお、アクティブ・ラーニングの成果検証については、進学率も注目されていることから、大学院部会の視点を反映した評価体制を整備することを一層期待したい。

事業成果の普及については、アクティブ・ラーニングの全学展開を進展させ、当該大学教育の中核に位置付けた点で、他大学にとって参考に資する取組であると評価できる。特に、アクティブ・ラーニングの導入を単なる「接ぎ木」とせず、自学の課題と認識し、その解決を図りながら全体的な教育改革につなげていくことが取組の有効性や持続性につながるという考え方は、他大学にとって有益な示唆となると評価できる。第3期機関別認証評価での高評価にも見られるとおり、こうした教授法の質的転換を大学全体の質保証につなげていく視点は、教学マネジメントの確立という観点からも他大学のモデルになると評価できる。他大学に即したコンサルテーションの役割も果たしつつ、地域ならびに全国の大学を牽引していくことを一層期待したい。